

著皂綫略○中行騰麻鞋幸近、以蒲經

〔三代實錄光孝四十九〕仁和二年十二月十四日戊午、行幸芹川野略○中是日勅參議已上著摺布衫行騰別

勅皇子源朝臣諱多○守散位正五位下藤原朝臣時平二人、令著摺衫行騰、

〔空穂物語後藤〕きぬはたはかなきひとへのなへたるをきたるに、かほかたはたひかるやう

にみゆ、あやしみおどろきて、まらうどけふはきたの、行幸なり、御ともにつかうまつれるに、お

もしろきもの、音のきこゆれば、たづねまいるとて、むかばきをときて、こけのうへにしき、こち

とてすへ、われもゑ給て、ことよしをとひ給ふ、

〔更科日記〕二とせばかりありて、又石山にこもりたれば、夜もすがら雨ぞいみじくふる略○中三日

さぶらひてまかでぬれば、れいのならざかのこなたに小家などた、このたびはいとるいひるけ

れば、えやとるまじうて、野中にかりそめに、いほつくりてすゑたれば、人はたゞ野にゐて夜をあ

かすくさのうへにむかばきなどうちききて、うへにむしろをまきて、いとほかなくて夜をあか

す、

〔吾妻鏡〕文治六年元建久十月三日甲申、令進發給源賴朝上洛御共輩之中爲宗者、多以列居南庭、而前

右衛門尉知家自常陸國遲參、令待給之間、已移時刻、御氣色太不快、及午刻、知家參上、乍著行騰經南

庭、直昇香解、於此所撤行騰、參御座之傍略○下

〔古今著聞集興言利口〕馬介入道くはんとうへ下向のときも、かゝること侍りき、中太冠者といふ

とし比の仲間おとこに、行騰のあまりたりけるを、一かけとらせたりけるを、此定にはきて、今か

た皮をば我はくべきものとも思はで、あれをばさてたがはき候はんぞと、人にとひたりける、た

だおなじほどのくせ事なき、此やうを馬助入道かたるをき、てつかうまつれる、

はきさして人のためにはのこすともかたむかばきにたれかなるべき